

東日本大震災に対する 支援活動報告

WFP 国連世界食糧計画 / 国連 WFP 協会

石巻専修大学に設置された WFP の大型テント（宮城県石巻市）

© WFP

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、未曾有の被害がもたらされました。国連WFP協会は、3月15日に「東日本大震災救援募金」を開始し、皆様にご協力をお願いしてきました。その結果、多くの皆様にご支援をいただき、5月31日までに228,117,533円が寄せられました。これまでに行われたWFPおよび国連WFP協会の支援活動をご報告いたします。

【救援物資の物流拠点を設置】

WFPは、被災した自治体やNGO等の支援団体が、



支援物資を一時保管するための
大型テント

と



事務作業等を行うための
プレハブ事務所

を建設し、物流拠点を設置。

6月30日現在、大型テント45張のうち44張を設置、プレハブ事務所は予定の36棟全棟を設置済み。※設置場所については以下地図の通り。



© JAWFP

大型テントとプレハブ事務所が設置された物流拠点(宮城県南三陸町)



© WFP/Yuko Yasuda

写真などの品をきれいにするボランティアたち(宮城県南三陸町)

大型テントは、仮設商店街、ボランティアの集会場や悪天時の一時避難場所、がれきの中から見つかった思い出の品をきれいにし持ち主を探す活動などにも活用されています。

【各国からの救援物資を被災地へ輸送】

WFPは各国から日本政府に送られてきた救援物資の一部(毛布、水、缶詰など)を、空港や港などで荷受けし、被災地に輸送。荷受・一時保管・輸送等のほとんどは、TNT、UPS、A.P. MOLLER MAERSK Groupなどの物流会社が無償でサービス提供。

【高カロリービスケットの提供】



© WFP/Yuko Yasuda

宮城県の要請を受け、高カロリービスケット50トンをマレーシアの備蓄庫から空輸。宮城県石巻市や仙台市、南三陸町などに提供。

【NGOへの人材提供】

WFPは日頃より、世界各国でNGO等の支援団体と協力関係にあり、今回も30以上のNGOが参加する人道支援組織「特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム」と連携。即戦力となる日本人職員4人を同法人に出向させ、NGOが被災地で行う活動を支援。

【世界各国からWFP職員が支援活動に】

WFPは本支援活動のため、スーダンやネパール、パナマなど、世界各地から27名の職員を日本に派遣。うち15名が日本人職員。

【企業から寄せられた食品や飲料を被災地へ】

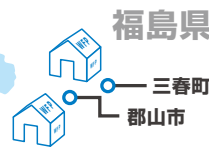
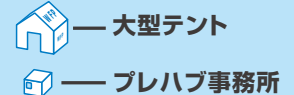
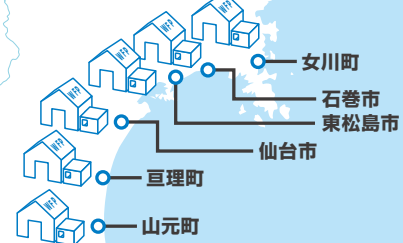
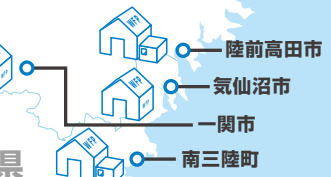


© JAWFP

国連WFP協会は、企業から提供された食品や飲料を取りまとめ、WFPはそれらを被災地に設置した大型テントを含む救援物資集積場まで輸送。物資は自治体やNGO等を通じて、被災者の手元へ。



本活動を通じて、52社より62万点を超える食品・飲料が寄せられました。ご支援くださった企業の皆様に、心より御礼申し上げます。



WFPは東日本大震災に際し緊急支援活動を行ってまいりましたが、2011年7月に活動を終了することになりました。これに伴い、国連WFP協会は、6月30日をもって東日本大震災救援募金の受付を終了いたします。皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。



World Food Programme

wfp.org/jp

2011年6月30日現在